

平成 30 年度 第 2 期久留米市中心市街地活性化基本計画の最終フォローアップ
に関する報告

令和元年 5 月
久留米市（福岡県）

全体総括

○計画期間：平成26年4月～平成31年3月（5年0月）

1. 計画期間終了後の市街地の概況

本計画では、「街に集い、街に暮らし、新たな価値を生み出すまち“久留米”」を基本コンセプトとして、「市民交流の場を広げ、多彩な活動を促進する」、「日々の生活と賑わい活動に対応した多様なサービスを提供する」、「すべての世代が安全で快適に暮らせる環境を創出する」という3つの基本方針のもと、当初認定を受けた 44 事業に、更なる活性化を図るための 19 事業を追加し、全 63 事業にて計画の推進に取り組んだ。

まず、ハード事業では、本計画の主要事業であり県南地域の中核都市に相応しいシンボル施設となる久留米シティプラザを平成 28 年 4 月に開業し、本施設が有する文化芸術の振興、広域交流の促進、賑わい交流の拠点としての機能を最大限に活用しながら、広域的な人、モノ、情報の交流が促進されており、現在、年間 50 万人を超える賑わいが創出されている。

また、民間活力による居住環境整備も着実に進捗し、新世界地区や銀座地区における優良建築物等整備事業の実施により、中心市街地への定住が着実に促進されており、子育て世代をはじめとする多様な世代がシティプラザを利用するなど、新たな都市の活力が目に見える効果として現れてきている。

次に、ソフト事業では、シティプラザの開業効果を更なる中心市街地の活性化に繋げるため、官民連携の下、毎年 15 万人以上を集客する「くるめ楽衆国まつり」などの新たなイベントの実施による賑わいづくりやシティプラザでの日常的な憩いや賑わいの場の提供をはじめ、これらの賑わいを商店街に波及させるため、マップや情報コーナーを活用した回遊促進の取り組みを積極的に進めているところである。このようなシティプラザ効果により商店街への来街者は着実に増えており、商店街にもこのチャンスをしっかりと活かしていくという意識変化が生まれており、個店の魅力向上や新規顧客獲得のための主体的な取り組みが継続されている状況である。

しかしながら、シティプラザ周辺やイベント開催時は多くの人で賑わうものの、プラザ周辺以外や平時の人の流れは依然として低迷しており、中心市街地全体の日常的な賑わいの回復には至っておらず、また「空き店舗対策事業」などにより商店街への新規出店は促進されている一方で、毎年同数程度の退店もあるなどの課題も顕在化している状況である。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

（基準日：毎年度1月1日）

（中心市街地 区域）	平成 25 年度 （計画前年度）	平成 26 年度 （1 年目）	平成 27 年度 （2 年目）	平成 28 年度 （3 年目）	平成 29 年度 （4 年目）	平成 30 年度 （最終年度）
人口	14,993	15,080	15,517	15,840	16,029	16,235
人口増減数	200	87	437	323	189	206
自然増減数	15	17	15	-8	-37	-5
社会増減数	185	70	422	331	226	211
転入者数	2,046	1,906	2,324	2,186	1,947	2,286

2. 計画した事業等は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか。(個別指標ごとではなく中心市街地の状況を総合的に判断)

【進捗・完了状況】

① 概ね順調に進捗・完了した

② 順調に進捗したとはいえない

【活性化状況】

① かなり活性化が図られた

② 若干の活性化が図られた

③ 活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)

④ 活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

3. 進捗状況及び活性化状況の詳細とその理由(2. における選択肢の理由)

計画していた事業は、主要事業である「久留米シティプラザ整備事業」をはじめ、63事業全てに着手しており、ほぼ予定通り実施できたため、概ね順調に進捗・完了したといえる。

主要事業である「久留米シティプラザ整備事業」や「久留米シティプラザ開館記念事業(くるめ楽衆国まつり)」等のイベント事業により、新たな賑わい(平成 30 年度久留米シティプラザ利用者約 55 万人)が創出され、中心市街地を訪れる人は確実に増加した。また、優良建築物等整備事業による 175 戸の住宅整備が行われ、子育て世代を含む(年少者人口の割合/13.6% <平成 24 年>⇒14.0% <平成 30 年>)定住が着実に促進された。

更に、福岡県が発表した久留米市内商業地の基準地価の平均変動率が、平成 29 年度には 25 年ぶりにプラスに転じ、その後も上昇(0.4% <平成 29 年>⇒0.8% <平成 30 年>)を続けるなど、中心市街地の魅力や価値が向上し、地域経済の活性化にも寄与している。

一方で、天神・博多地区における更なる商業機能の集積や、郊外型大型店舗の増床(平成 27 年度 15,000 m²増床)の影響、インターネット販売の急速な普及を受け、中心市街地の売り場面積(85,594 m² <平成 19 年>⇒56,025 m² <平成 26 年>)や販売額(65,300 百万円 <平成 19 年>⇒49,375 百万円 <平成 26 年>)はいずれも減少するなど、本市の中心市街地を取り巻く経済環境は依然として厳しい状況が続いており、その結果、目標に達しなかった指標もある。

このように一部に課題はあるものの、本計画により、商業機能に加え、交流機能の整備による新たな賑わいの創出や民間マンション建設等による居住機能の充実などが図られ、中心市街地においては若干の活性化が図られたと考える。

4. 中心市街地活性化基本計画の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)
- ④活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

【詳細を記載】

久留米市中心市街地活性化協議会(以下「協議会」という)は、平成18年8月の設立以来、行政や商工会議所、まちづくり会社、街なか再生に事業意欲がある民間事業者とともに、中心市街地活性化に向け取り組んで来た。基本計画に登載された事業は概ね順調に推移し、居住人口の増加や、空き店舗率の改善、歩行者通行量の変化などの効果が生まれた。なかでも、「久留米シティプラザ」開館効果は大きく、観劇やコンサート、MICEでの来街者が街中を回遊し、飲食を中心に売り上げの改善も見えるようになって来ている。また、「カタチの森」のシティプラザ併設、六角堂広場での子ども向け企画などが功を奏し、子育て世代の来街が週末を中心に増加していることも顕著な例として挙げられる。こうした「シティプラザ効果」を背景に、商店街のモチベーション向上も見られ、中心市街地で行われる各種催しへの積極的な参画や出店誘致、商店街独自の催し実施が行われるようになった。個店売り上げ向上と、居住者の生活を支える店舗創出を企図する、平成29年度から開始された「繁盛店ネットワーク」事業では、専門家と商工会議所経営指導員が参加店を臨店指導する仕組みが構築され、店頭改善や商品構成の見直し、POPや媒体を使用した広告宣伝PRなどが行われた。その結果、売上げが大きく向上した店舗も複数見られ、商店街全体の賑わいが創出されつつある。全体的な賑わいの回復は、一番街を中心とした新規出店の増加や、空き店舗をリノベーションして利活用しようとする機運醸成へも寄与したと考えられ、新規開業店舗の商店街組合加入促進という、副次的効果も表れた。

その一方で、西鉄久留米駅周辺の再整備や更なる日常的な賑わい創出などの課題も残っている。協議会としても延長された市の任意基本計画に基づき、引き続き、地元商業者及び地域住民と、大学、NPO、市民団体を含む広範な協力や連携連動を図る取り組みを更に続け、第二期認定基本計画終了後のまちづくりを推進し、次期認定基本計画立案を目指す中で、子どもたちの未来に負荷をかけない施策実施と、企画づくりを継続して行く必要がある。

5. 市民意識の変化

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)
- ④活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

○久留米市民意識調査

調査日:平成 29 年 6 月 29 日～7 月 11 日

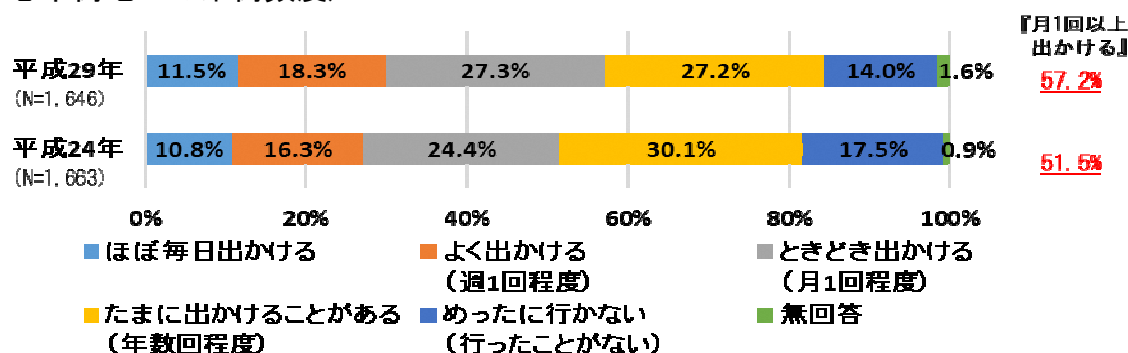
調査方法:市民 2,000 人を抽出しアンケートを郵送

有効サンプル数:1,765 人

・中心市街地への来街頻度

毎年実施している市民意識調査において、中心市街地活性化の取り組みの実施前と実施後の市民の意識変化を調査するため、中心市街地への来街頻度に関するアンケートを行った。中心市街地へ「月 1 回以上」出かける人は、平成 29 年度調査が 57.2%で、平成 24 年度調査(前回調査)の 51.5%と比較して増加しており、中心市街地活性化に関する取り組みの効果が少しずつ現れているものと考えられる。

(中心市街地への来街頻度)

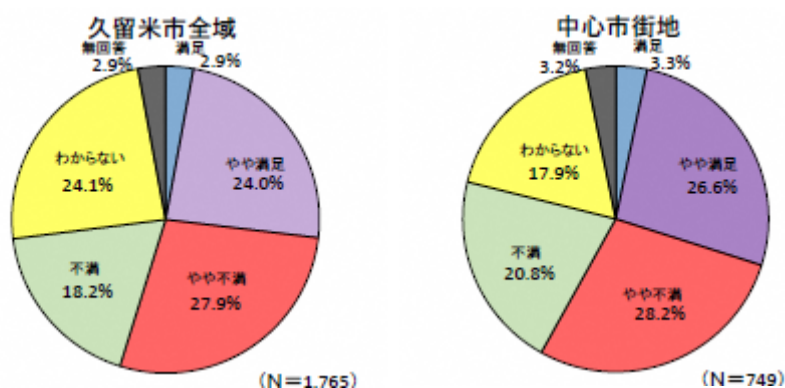


・中心市街地の満足度

上記市民意識調査において、中心市街地の満足度に対する意識調査を行った。

久留米市全域では、「満足」に「やや満足」を加えた 26.9%に対し、「不満」に「やや不満」を加えた 46.1%が上回っており、満足より不満を感じている人が多い。一方、中心市街地居住者では、「満足」・「やや満足」が 29.9%、「不満」・「やや不満」が 49%となっており、満足・不満度がほぼ同じ割合で増加している。このことから、来街者と居住者のニーズを捉えた中心市街地活性化の取組みを推進することにより満足度を高めていく必要がある。

(中心市街地の満足度)



6. 今後の取組

本計画における主要事業である久留米シティプラザを中心に、中心市街地全体に賑わいを広げる取り組みを推進したが、日常的な賑わい不足などの課題を残しており、目標とした水準を達成できていない項目がある。

このため、計画期間終了後も、当該目標の達成に向け、計画に位置づけていた「中心商店街空き店舗対策事業」や「JR久留米駅前第二街区第一種市街地再開発事業」の着実な推進を図るとともに、引き続き久留米シティプラザの整備効果を最大限に活かすための取り組みの充実を図りながら継続していく。

このため、今後は、本計画を市の任意計画として延長し、計画の成果を活かしながら引き続き官民一体となって活性化の取り組みを推進していくとともに、目標の達成状況に関する指標に基づく評価を行い、PDCA サイクルを継続する。

(参考)

各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値		達成状況
				(数値)	(年月)	
来街者の増加と活発な市民活動による賑わいのある街	歩行者通行量	35,680 人 (H24)	50,000 人 (H30)	34,302 人	H30.7	C
	交流施設の 利用者数	660,095 人 (H24)	1,000,000 人 (H30)	943,258 人	H31.3	B
心地よく多様なサービスを受けることができる街	空き店舗率	19.9% (H24)	14.0% (H30)	16.6%	H31.3	B
快適な生活環境のもとで、暮らしやすく住み続けたい街	居住人口	14,786 人 (H24)	16,000 人 (H30)	16,162 人	H31.3	A

注) 達成状況欄 (注: 小文字のa、b、cは下線を引いて下さい)

A(計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。)

a(計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。)

B(計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値は超えることができたが、目標値には及ばず。)

b(計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

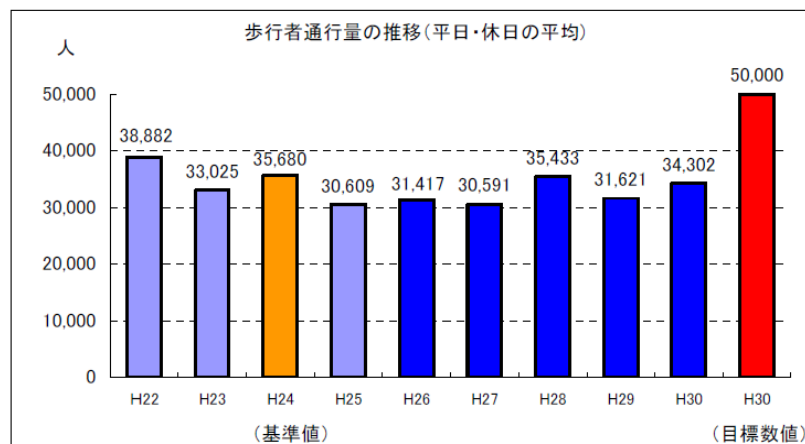
C(計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

c(計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

個別目標

「歩行者通行量」※目標設定の考え方基本計画 P68～P73 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位)
H24	35,680 人 (基準年値)
H25	30,609 人
H26	31,417 人
H27	30,591 人
H28	35,433 人
H29	31,621 人
H30	34,302 人
H30	50,000 人 (目標値)

※調査方法:歩行者通行量調査(毎年度7月最終金曜日、日曜日(10時～19時)実施)

※調査月:平成30年7月27日(金)、7月29日(日)

※調査主体:久留米市商工会議所

※調査対象:10地点(西鉄久留米駅東口から六ツ門交差点までの中心商店街及び明治通り)を通過する歩行者及び自転車

2. 目標の達成状況【C】

歩行者通行量の増加に向けた事業については、おおむね予定通り進捗・完了しており、単独事業としての直接的な事業効果は現れている。特に主要事業であるシティプラザ整備やイベント等の取り組みにより、年間を通じて歩行者通行量は確実に増加しているものと考えられる。

しかしながら、当初想定していた歩行者の回遊性向上の効果については限定的となっており、各地点の通行量の集計である調査結果に効果が現れておらず基準値を下回ったため、達成状況はCとした。

3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況(事業効果)

①. 六ツ門8番街地区第一種市街地再開発事業(市街地再開発組合)

事業実施期間	平成23年度～平成27年度【済】
事業概要	市街地再開発事業により土地の高度利用を図り、隣接する9番街区と一体的にホール機能やコンベンション機能、商業機能、広場機能などを併せ持つ久留米シティプラザ整備を行う。
国の支援措置名及び支援期間	・社会資本整備総合交付金(市街地再開発事業等) (国土交通省)(平成23年度～平成27年度)
目標値・最新値及び達成状況	目標値 8,328人の内数 最新値 本施設の利用者数は552,646人であるが、利用者が対象地点を歩行した実数が不明のため最新値は測定不能。 全体目標未達成
達成した(出来なかった)理由	MICEやホール事業、広場イベント等の開催により、施設周辺では歩行者通行量の増加がみられた。しかしながら、日常的な賑わいを創出するための店舗の魅力向上や来街者への情報発信の不足等により、中心市街地全体へ回遊性を向上させるまでには至らなかった。

計画終了後の状況 (事業効果)	平成28年4月に久留米シティプラザ整備関連事業が完了し、本施設が有する機能を最大限活用し、広域的な人、もの、情報の交流の促進を図ることで、年間約50万人を超える利用者がいる。
事業の今後について	施設整備事業は完了したが、引き続き本施設の整備効果を活かした賑わいづくりや来街者の回遊性向上の取り組みに継続して取り組む。

②. 六ツ門8・9番街地区暮らし・にぎわい再生事業(久留米市)

事業実施期間	平成23年度～平成27年度【済】
事業概要	暮らし・にぎわい再生事業により都市福祉施設の整備を図り、ホール機能やコンベンション機能、商業機能、広場機能などを併せ持つ久留米シティプラザを整備する。
国の支援措置名及び支援期間	・社会資本整備総合交付金(暮らし・にぎわい再生事業(六ツ門地区)) (国土交通省)(平成23年度～平成27年度)
目標値・最新値及び達成状況	目標値 8,328人の内数 最新値 本施設の利用者数は552,646人であるが、利用者が対象地点を歩行した実数が不明のため最新値は測定不能。 全体目標未達成
達成した(出来なかった)理由	MICEやホール事業、広場イベント等の開催により、施設周辺では歩行者通行量の増加がみられた。しかしながら、日常的な賑わいを創出するための店舗の魅力向上や来街者への情報発信の不足等により、中心市街地全体へ回遊性を向上させるまでには至らなかった。
計画終了後の状況 (事業効果)	平成28年4月に久留米シティプラザ整備関連事業が完了し、本施設が有する機能を最大限活用し、広域的な人、もの、情報の交流の促進を図ることで、年間約50万人を超える利用者がいる。
事業の今後について	施設整備事業は完了したが、引き続き本施設の整備効果を活かした賑わいづくりや来街者の回遊性向上の取り組みに継続して取り組む。

③. 久留米シティプラザ開館記念等事業(久留米市)

事業実施期間	平成27年度～平成30年度【済】
事業概要	久留米市シティプラザ開館年度を通した「オープニングシリーズ」として集客力のある事業を行うとともに中心市街地と連携協働したイベントなどを実施し、街なかの賑わいづくりに取り組む。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置活用なし
目標値・最新値及び達成状況	目標値 8,328人の内数 最新値 本事業により開催された事業やイベントには、多くの参加者が集まったが、参加者が対象地点を歩行した実数が不明のため、最新値は測定不能。 全体目標未達成
達成した(出来なかった)理由	事業やイベント参加者が目的前後に周辺を歩きたくなるような中心商店街店舗の魅力向上や来街者への情報発信の不足により、中心市街地全体へ回遊性を向上させるまでには至らなかった。
計画終了後の状況 (事業効果)	平成28年4月に久留米シティプラザ整備関連事業が完了し、本施設が有する機能を最大限活用し、広域的な人、もの、情報の交流の促進を図ることで、年間約50万人を超える利用者がいる。
事業の今後について	開館記念としての事業は終了したが、今後も中心市街地と連携協働した賑わいの創出に取り組む。

④. 中心市街地活性化推進イベント事業(中心商店街、NPO法人等)

事業実施期間	平成 15 年度～【実施中】
事業概要	中心市街地において中心商店街やNPO法人、街づくり会社などが、地域資源等を活用しながら、年間を通したイベント開催に取り組む。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 (総務省)(平成 30 年度)
目標値・最新値及び達成状況	目標値 228 人 最新値 本事業により開催されたイベントには、多くの参加者が集まったが、参加者が対象地点を歩行した実数が不明のため、最新値は測定不能。 全体目標未達成
達成した(出来なかった)理由	イベント参加者がイベント前後に周辺を歩きたくなるような中心商店街店舗の魅力向上や来街者への情報発信の不足により、中心市街地全体へ回遊性を向上させるまでには至らなかった。
計画終了後の状況(事業効果)	市や商店街、NPO等が連携して実施する「イルミネーション事業」や「日曜市」などが開催されており、毎年多くの参加者を集めている。
事業の今後について	まちなかの賑わい創出のためのイベントを継続開催するとともに、来街者の回遊性の向上につなげるため情報発信を強化していく。

⑤. 中心市街地商店街空き店舗対策事業(久留米市)

事業実施期間	平成 16 年度～【実施中】
事業概要	中心市街地商店街への出店にあたり、必要な店舗改装費の一部を助成することにより、商業機能の維持・強化を図り、来街者や居住者に対し、多様なサービスの提供を行う。
国の支援措置名及び支援期間	・社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業(久留米市中心市街地地区)) (国土交通省)(平成 26 年度) ・中心市街地活性化ソフト事業 (総務省)(平成 30 年度)
目標値・最新値及び達成状況	目標値 3,960 人 最新値 計画期間中の本事業による削減店舗数は 12 店舗あるが、新規店舗利用者が対象地点を歩行した実数が不明のため最新値は測定不能。 全体目標未達成
達成した(出来なかった)理由	日常的な賑わいを創出するための店舗の魅力向上や来街者への情報発信の不足により、中心市街地全体へ回遊性を向上させるまでには至らなかった。
計画終了後の状況(事業効果)	計画期間中に 12 件の店舗の出店を誘導し、本事業以外の出店も含めると合計で 119 店舗の出店があったが、既存店舗の閉店も 118 店舗あった。
事業の今後について	これまでの空き店舗対策に加え、平成 29 年度から開始した空かない店舗対策についても継続的に取り組む。

⑥. 新世界地区(第 2 期工区)優良建築物等整備事業(推進協議会)

事業実施期間	平成 25 年度～平成 28 年度【済】
事業概要	新世界地区における優良建築物等整備事業の実施により、中心市街地の定住促進を図り、居住者の日常的な商店街の回遊による賑わい創出を目指す。
国の支援措置名及び	社会資本整備総合交付金(優良建築物等整備事業)

支援期間	(国土交通省)(平成 25 年度～平成 28 年度)
目標値・最新値及び達成状況	目標値 594 人 最新値 91 戸の住戸が整備されたが、居住者が対象地点を歩行した実数が不明のため最新値は測定不能。 全体目標未達成
達成した(出来なかった)理由	まちなかの居住者は増加したが、日常的に利用する店舗が不足しており、中心市街地の新たな回遊者になるまでには至らなかった。
計画終了後の状況(事業効果)	平成 28 年 12 月に完了し、一定数の住戸が整備されたことで、中心市街地への定住が促進された。
事業の今後について	実施済み

⑦. 銀座地区優良建築物等整備事業など(推進協議会)

事業実施期間	平成 25 年度～平成 29 年度【済】
事業概要	銀座地区における優良建築物等整備事業の実施により、中心市街地の定住促進を図り、居住者の日常的な商店街の回遊による賑わい創出を目指す。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(優良建築物等整備事業) (国土交通省)(平成 25 年度～平成 29 年度)
目標値・最新値及び達成状況	目標値 894 人 最新値 84 戸の住戸が整備されたが、居住者が対象地点を歩行した実数が不明のため最新値は測定不能。 全体目標未達成
達成した(出来なかった)理由	まちなかの居住者は増加したが、日常的に利用する店舗が不足しており、中心市街地の新たな回遊者になるまでには至らなかった。
計画終了後の状況(事業効果)	平成 30 年 3 月に完了し、一定数の住戸が整備されたことで、中心市街地への定住が促進された。
事業の今後について	実施済み

⑧. 地域優良賃貸住宅助成事業(市)

事業実施期間	平成 21 年度～平成 30 年度【済】 〔認定基本計画:平成 21 年度～ 〕
事業概要	子育て世帯や高齢者世帯、障害者世帯など居住の安全確保に特に配慮が必要な世帯の住宅供給を推進するために、整備費の一部を助成し、良好な賃貸住宅の供給や街なか居住の促進を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置活用なし 〔認定基本計画:社会資本整備総合交付金(地域優良賃貸住宅整備事業(国土交通省)) 平成 22 年度～ 〕
目標値・最新値及び達成状況	目標値 366 人 最新値 0 人 目標未達成
達成した(出来なかった)理由	計画期間中に、本事業を活用した施設整備が実施されなかったため。
計画終了後の状況(事業効果)	直接的な整備には至らなかったが、子育て世帯向けの「ファミリー世帯型」や高齢者向け「サービス型」の住宅整備についての相談対応を行い高齢者や子育て世代に優しい共同住宅の誘導に取り組んだ。
事業の今後について	住まいに関する窓口での相談対応を継続し、まちなか居住の促進に取り組む。

⑨. 西鉄久留米駅東口広場賑わい創出事業(活用多様化・広場環境の整備)
(西鉄久留米駅東口広場活用協議会、WeLove 久留米協議会、久留米市)

事業実施期間	平成 25 年度～【実施中】
事業概要	西鉄久留米駅東口広場が抱える課題を解決し、六ツ門地区と連携した一体的な賑わいづくりを行うため、食・医療・音楽等のイベントの充実、オープンカフェの社会実験、放置自転車対策をはじめとする広場の環境改善に向けた取り組みを推進する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置活用なし
目標値・最新値及び達成状況	目標値 H24 調査の 10%(1,045 人)増の内数 最新値 H24 調査から 3,115 人減 目標未達成
達成した(出来なかった)理由	イベントでの集客は一定数あったが、計測地点における日常的な歩行者通行量の増加には至らなかった。
計画終了後の状況(事業効果)	各種イベントと連携したオープンカフェ等を実施すると共に、市と連携して放置自転車対策などにも計画的に取り組んでいる。平成 29 年度からは新たにクリスマスマーケットも実施し、2,000 人程を集客している。
事業の今後について	まちなかの賑わい創出のためのイベントを継続開催するとともに、来街者の回遊性の向上につなげるため情報発信を強化していく。

⑩. 西鉄久留米駅東口魅力ある商業の展開事業
(西鉄久留米駅東口広場活用協議会、WeLove 久留米協議会)

事業実施期間	平成 25 年度～【実施中】
事業概要	西鉄久留米駅東口岩田屋屋上の「SORA-IRO 広場」を多様な目的のために開放するとともに、商業者主体の共同販促、既存商業施設のブラッシュアップに取り組む。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置活用なし
目標値・最新値及び達成状況	目標値 H24 調査の 10%(1,045 人)増の内数 最新値 H24 調査から 3,115 人減 目標未達成
達成した(出来なかった)理由	「SORA-IRO 広場」でのイベント集客は一定数あったが、計測地点における日常的な歩行者通行量の増加には至らなかった。
計画終了後の状況(事業効果)	地域団体等や来街者にイベント広場、憩いの場として活用されている。
事業の今後について	「SORA-IRO ひろば」を活用した賑わいづくり、商業活性化に取り組む。

⑪. 西鉄久留米駅東口安全安心なまちづくり事業
(西鉄久留米駅東口広場活用協議会、WeLove 久留米協議会)

事業実施期間	平成 25 年度～【実施中】
事業概要	防犯カメラの設置や防犯パトロールなどの取組を推進し、誰もが安心して来街できる駅前拠点を形成する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置活用なし
目標値・最新値及び達成状況	目標値 H24 調査の 10%(1,045 人)増の内数 最新値 H24 調査から 3,115 人減 目標未達成
達成した(出来なかった)理由	防犯カメラの設置やまちなかの清掃活動により駅前環境は改善されたが、計測地点における日常的な歩行者通行量の増加には至らなかった

	た。
計画終了後の状況 (事業効果)	防犯カメラの設置やまちなかの清掃活動を通じ、駅前拠点としての環境が改善された。
事業の今後について	清掃活動などを継続して行い、安心して来街できる駅前拠点づくりに取り組む。

⑫. We Love 久留米協議会の活動の推進(WeLove 久留米協議会)

事業実施期間	平成 25 年度～【実施中】
事業概要	市内及び近郊の企業、団体、住民、行政などが連携して、快適な環境の形成、集客力の向上、コミュニティの活性化による地域経済の活性化と生活文化の創造活動を行う。
国の支援措置名及び 支援期間	国の支援措置活用なし
目標値・最新値及び 達成状況	目標値 H24 調査の 10%(1,045 人)増の内数 最新値 H24 調査から 3,115 人減 目標未達成
達成した(出来なかつた)理由	放置自転車対策等により環境は改善されたが、計測地点における日常的な歩行者通行量の増加には至らなかった。
計画終了後の状況 (事業効果)	放置自転車対策等の活動を通じ、駅前拠点としての環境が改善された。
事業の今後について	様々な主体の連携による地域経済の活性化と生活文化の創造活動に取り組む。

⑬. シンボルロード整備事業(国土交通省、福岡県、久留米市)

事業実施期間	平成 26 年度～平成 31 年度【実施中】 〔認定基本計画:平成 26 年度～30 年度 〕
事業概要	中心市街地の骨格となる都市軸を「くるめシンボルロード」として、安全性・快適性を高める移動空間整備、並びに通りの個性や魅力を向上させるための整備を行う。
国の支援措置名及び 支援期間	社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業(久留米市中心市街地地区))(国土交通省)(平成 26 年度～平成 31 年度) 〔認定基本計画:平成 26 年度～30 年度 〕
目標値・最新値及び 達成状況	目標値 H24 調査の 10%(777 人)増の内数 最新値 H24 調査から 259 人減 目標未達成
達成した(出来なかつた)理由	ハード面の整備は進んだが、周辺を歩いてみたくなるような魅力的な店舗づくりや情報発信等が不足しており、計測地点における日常的な歩行者通行量の増加には至らなかった。
計画終了後の状況 (事業効果)	「くるめシンボルロード」として、安全性・快適性を高める移動空間整備を行うことで、通りの個性や魅力が向上した。
事業の今後について	関係機関と連携しながら、事業完了に向けた取り組みを推進する。

⑭. 花とみどりの景観事業(くるめ花街道サポーター制度)(久留米市)

事業実施期間	平成 26 年度～平成 30 年度【済】
事業概要	「訪れたくなるまち久留米」、「歩きたくなるまち久留米」の魅力を高め、花あふれる街並みを創出するため、花の植え付けやその後の維持管理を市民と行政との協働で行う。
国の支援措置名及び 支援期間	国の支援措置活用なし

目標値・最新値及び達成状況	目標値 H24 調査の 10%(777 人)増の内数 最新値 H24 調査から 259 人減 目標未達成
達成した(出来なかった)理由	緑化活動により都市景観は向上したが、周辺を歩いてみたくなるような魅力的な店舗づくりや情報発信等が不足しており、計測地点における日常的な歩行者通行量の増加には至らなかった。
計画終了後の状況(事業効果)	シンボルロードをはじめとする主要な通りにおいて都市景観が向上した。
事業の今後について	道路管理者や緑化ボランティア団体と連携し、都市景観の向上に取り組む。

⑮. 中心市街地における景観形成推進事業(久留米市)

事業実施期間	平成 26 年度～平成 28 年度【済】
事業概要	中心市街地の良好な景観形成のため「景観重点地区の指定」、「景観重要建造物等の指定」及び「景観重要公共施設の指定」等に向けた取り組みを進める。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業(久留米市中心市街地地区))(国土交通省)(平成 26 年度～平成 28 年度) 〔認定基本計画:平成 26 年度～〕
目標値・最新値及び達成状況	目標値 H24 調査の 10%(777 人)増の内数 最新値 H24 調査から 259 人減 目標未達成
達成した(出来なかった)理由	良好な景観形成についての検討に取り組んだが、直接的な事業効果の発現には至らなかった。
計画終了後の状況(事業効果)	中心市街地景観形成ガイドラインを策定した。
事業の今後について	中心市街地景観形成ガイドラインに基づき良好な景観形成に向けた取り組みを進める。

4. 今後の対策

歩行者通行量の増加に向けた事業については、おおむね予定通り進捗・完了したが、目標数値の達成には至らなかった。

久留米シティプラザなどの集客拠点には人が集まり、その周囲の調査地点では開業前の 2 倍程度の歩行者通行量となったが、他の調査地点までは回遊していないため、全体の歩行者通行量としては伸びていない。

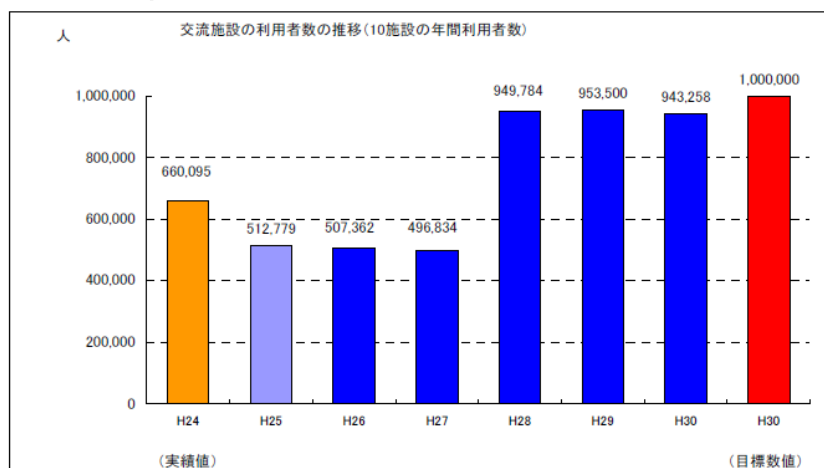
回遊しない原因としては、商店街を歩いてみたくなるようなコンテンツ創りとその発信が充分には行われておらず、久留米シティプラザへの来館目的(観劇など)を終えた後、時間を割いてまで“商店街を歩く”動機に訴求していないためと想定される。

または商店街を回遊したとしても、“再来店したくなる”魅力のある店舗が現時点では少なく、商店街全体として顧客化にまで繋がらず、結果として持続的な通行量の増加には至っていないと推測される。

今後、シティプラザ等への来街者を中心市街地全体に回遊させるためのしくみや情報発信の充実強化、あるいは既存店舗の魅力の向上など、さらなる対策を講じ、状況の改善につなげていく。

「交流施設の利用者数」※目標設定の考え方基本計画 P74～P77 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位)
H24	660,095 人 (基準年値)
H25	512,779 人
H26	507,362 人
H27	496,834 人
H28	949,784 人
H29	953,500 人
H30	943,258 人
H30	1,000,000 人 (目標値)

※調査方法:各施設管理者調査(1年間の施設利用者の報告)

※調査月:平成31年3月末

※調査主体:久留米市

※調査対象:10施設

(市民会館、六角堂広場、六角堂プラザ、六ツ門図書館、市民活動サポートセンター、児童センター、一番街多目的ギャラリー、一番街プラザ、子育て交流プラザくるん、久留米シティプラザ)

2. 目標の達成状況【B】

主要施設である久留米シティプラザの整備も完了しており、他の事業についても概ね予定通り進捗している。久留米シティプラザは年間 50 万人を超える利用者がおり、他の施設についても概ね利用者数を伸ばしている。このような状況を踏まえ、平成 29 年度のフォローアップ時点では「目標達成可能」と見込んでいた。

しかしながら、主要施設である久留米シティプラザにおいて、開業効果が落ち着いたことなどから、比較的大型のイベントの開催割合が減少したことや久留米シティプラザを中心とした各交流施設の連携効果が十分に発揮されなかったことから、基準値は超えることができたが目標値には及ばなかったため、達成状況はBとした。

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況(事業効果)

①. 六ツ門 8 番街地区第一種市街地再開発事業(市街地再開発組合)

事業実施期間	【再掲】P6 参照
事業概要	【再掲】P6 参照
国の支援措置名及び支援期間	【再掲】P6 参照
目標値・最新値及び達成状況	目標値 612,800 人の内数 最新値 552,646 人 目標未達成
達成した(出来なかった)理由	開館以来、施設全体の稼働は上昇傾向にあるが、開業効果が落ち着いたことなどから、一部の施設で比較的大型のイベントの開催割合が減少したため。
計画終了後の状況(事業効果)	文化芸術振興、広域交流促進、賑わい交流の拠点として整備を行うことにより中心市街地への来街促進が図られた。
事業の今後について	実施済み

②. 六ツ門 8・9 番街地区暮らしにぎわい再生事業(久留米市)

事業実施期間	【再掲】P7 参照
事業概要	【再掲】P7 参照
国の支援措置名及び支援期間	【再掲】P7 参照
目標値・最新値及び達成状況	目標値 612,800 人の内数 最新値 552,646 人 目標未達成
達成した(出来なかった)理由	開館以来、施設全体の稼働は上昇傾向にあるが、開業効果が落ち着いたことなどから、一部の施設で比較的大型のイベントの開催割合が減少したため。
計画終了後の状況(事業効果)	文化芸術振興、広域交流促進、賑わい交流の拠点として整備を行うことにより中心市街地への来街促進が図られた。
事業の今後について	実施済み

③. 久留米シティプラザ開館記念等事業(久留米市)

事業実施期間	【再掲】P7 参照
事業概要	【再掲】P7 参照
国の支援措置名及び支援期間	【再掲】P7 参照
目標値・最新値及び達成状況	目標値 612,800 人の内数 最新値 552,646 人 目標未達成
達成した(出来なかった)理由	開館以来、施設全体の稼働は上昇傾向にあるが、開業効果が落ち着いたことなどから、一部の施設で比較的大型のイベントの開催割合が減少したため。
計画終了後の状況(事業効果)	文化芸術振興、広域交流促進、賑わい交流の拠点として整備を行うことにより中心市街地への来街促進が図られた。
事業の今後について	開館記念としての事業は終了したが、今後も中心市街地と連携協働した賑わいの創出に取り組む。

④. 中心市街地活性化推進イベント事業(中心商店街、NPO法人等)

事業実施期間	【再掲】P8 参照
事業概要	【再掲】P8 参照
国の支援措置名及び支援期間	【再掲】P8 参照
目標値・最新値及び達成状況	目標値 6,020 人の内数 イベント参加者が交流施設を利用した実数が不明のため最新値は測定不能。 全体目標未達成
達成した(出来なかった)理由	イベント参加者がイベント前後に周辺を歩きたくなるような中心商店街店舗の魅力向上や来街者への情報発信の不足により、中心市街地全体へ回遊性を向上させるまでには至らなかった。
計画終了後の状況(事業効果)	市や商店街、NPO等が連携して実施する「イルミネーション事業」や「日曜市」などが開催されており、毎年多くの来街者を集めている。
事業の今後について	まちなかの賑わい創出のためのイベントを継続開催するとともに、来街者の回遊性の向上につなげるため情報発信を強化していく。

⑤. 中心市街地商店街空き店舗対策事業(久留米市)

事業実施期間	【再掲】P8 参照
事業概要	【再掲】P8 参照
国の支援措置名及び支援期間	【再掲】P8 参照
目標値・最新値及び達成状況	目標値 6,020 人の内数 最新値 計画期間中の本事業による削減店舗数は 12 店舗あるが、新規店舗利用者が交流施設を利用した実数が不明のため最新値は測定不能。 全体目標未達成
達成した(出来なかった)理由	日常的な賑わいを創出するための店舗の魅力向上や来街者への情報発信の不足により、中心市街地全体へ回遊性を向上させるまでには至らなかった。
計画終了後の状況(事業効果)	計画期間中に 12 件の店舗の出店を誘導し、本事業以外の出店も含めると合計で 119 店舗の出店があったが、既存店舗の閉店も 118 店舗あった。
事業の今後について	これまでの空き店舗対策に加え、平成 29 年度から開始した空かない店舗対策についても継続的に取り組む。

⑥. 新世界地区(第 2 期工区)優良建築物等整備事業(推進協議会)

事業実施期間	【再掲】P8 参照
事業概要	【再掲】P8 参照
国の支援措置名及び支援期間	【再掲】P8 参照
目標値・最新値及び達成状況	目標値 14,056 人の内数 91 戸の住戸が整備されたが、居住者が交流施設を利用した実数が不明のため最新値は測定不能。 全体目標達成
達成した(出来なかった)理由	まちなかの居住者は増加したが、日常的に利用する店舗が不足しており、中心市街地の新たな回遊者になるまでには至らなかった。
計画終了後の状況(事業効果)	平成 28 年 12 月に完了し、一定数の住戸が整備されたことで、中心市街地への定住が促進された。
事業の今後について	実施済み

⑦. 銀座地区優良建築物等整備事業など(推進協議会)

事業実施期間	【再掲】P9 参照
事業概要	【再掲】P9 参照
国の支援措置名及び支援期間	【再掲】P9 参照
目標値・最新値及び達成状況	目標値 14,056 人の内数 84 戸の住戸が整備されたが、居住者が交流施設を利用した実数が不明のため最新値は測定不能。 全体目標達成
達成した(出来なかった)理由	まちなかの居住者は増加したが、日常的に利用する店舗が不足しており、中心市街地の新たな回遊者になるまでには至らなかった。
計画終了後の状況(事業効果)	平成 30 年 3 月に完了し、一定数の住戸が整備されたことで、中心市街地への定住が促進された。
事業の今後について	実施済み

⑧. 地域優良賃貸住宅助成事業(市)

事業実施期間	【再掲】P9 参照
事業概要	【再掲】P9 参照
国の支援措置名及び支援期間	【再掲】P9 参照
目標値・最新値及び達成状況	目標値 14,056 人の内数 最新値 0 人 目標未達成
達成した(出来なかった)理由	計画期間中に、本事業を活用した施設整備が実施されなかったため。
計画終了後の状況(事業効果)	直接的な整備には至らなかったが、子育て世帯向けの「ファミリー世帯型」や高齢者向け「サービス型」の住宅整備についての相談対応を行い高齢者や子育て世代に優しい共同住宅の誘導に取り組んだ。
事業の今後について	住まいに関する窓口での相談対応を継続し、まちなか居住の促進に取り組む。

⑨. 西鉄久留米駅東口広場賑わい創出事業(活用多様化・広場環境の整備)
(西鉄久留米駅東口広場活用協議会、WeLove 久留米協議会)

事業実施期間	【再掲】P10 参照
事業概要	【再掲】P10 参照
国の支援措置名及び支援期間	【再掲】P10 参照
目標値・最新値及び達成状況	目標値 6,020 人の内数 イベント参加者が交流施設を利用した実数が不明のため最新値は測定不能。 全体目標未達成
達成した(出来なかった)理由	イベントでの集客は一定数あったが、中心市街地全体へ回遊性を向上させるまでには至らなかった。
計画終了後の状況(事業効果)	各種イベントと連携したオープンカフェ等を実施すると共に、放置自転車対策などにも計画的に取り組んでいる。平成 29 年度からは新たにクリスマスマーケットも実施し、2,000 人程を集客している。
事業の今後について	まちなかの賑わい創出のためのイベントを継続開催するとともに、来街者の回遊性の向上につなげるため情報発信を強化していく。

⑩. 西鉄久留米駅東口魅力ある商業の展開事業
(西鉄久留米駅東口広場活用協議会、WeLove 久留米協議会)

事業実施期間	【再掲】P10 参照
事業概要	【再掲】P10 参照
国の支援措置名及び支援期間	【再掲】P10 参照
目標値・最新値及び達成状況	目標値 6,020 人の内数 イベント参加者が交流施設を利用した実数が不明のため最新値は測定不能。 全体目標未達成
達成した(出来なかった)理由	「SORA-IRO 広場」でのイベント集客は一定数あったが、中心市街地全体へ回遊性を向上させるまでには至らなかった。
計画終了後の状況(事業効果)	地域団体等や来街者にイベント広場、憩いの場として活用されている。
事業の今後について	「SORA-IRO ひろば」を活用し、賑わいづくり、商業活性化に取り組む。

⑪. 西鉄久留米駅東口安全安心なまちづくり事業
(西鉄久留米駅東口広場活用協議会、WeLove 久留米協議会)

事業実施期間	【再掲】P10 参照
事業概要	【再掲】P10 参照
国の支援措置名及び支援期間	【再掲】P10 参照
目標値・最新値及び達成状況	目標値 6,020 人の内数 防犯カメラの設置やまちなかの清掃活動により駅前環境は改善されたが、交流施設を利用した実数が不明のため最新値は測定不能。 全体目標未達成
達成した(出来なかった)理由	防犯カメラの設置やまちなかの清掃活動により雰囲気は改善されたが、中心市街地全体へ回遊性を向上させるまでには至らなかった。
計画終了後の状況(事業効果)	防犯カメラの設置やまちなかの清掃活動を通じ、駅前拠点としての環境が改善された。
事業の今後について	清掃活動などの環境改善を継続して行い、安心して来街できる駅前拠点づくりに取り組む。

⑫. We Love 久留米協議会の活動の推進(WeLove 久留米協議会)

事業実施期間	【再掲】P11 参照
事業概要	【再掲】P11 参照
国の支援措置名及び支援期間	【再掲】P11 参照
目標値・最新値及び達成状況	目標値 6,020 人の内数 イベント参加者が交流施設を利用した実数が不明のため最新値は測定不能。 全体目標未達成
達成した(出来なかった)理由	放置自転車対策等により環境は改善されたが、中心市街地全体へ回遊性を向上させるまでには至らなかった。
計画終了後の状況(事業効果)	放置自転車対策等の活動を通じ、駅前拠点としての環境が改善された。
事業の今後について	様々な主体の連携による地域経済の活性化と生活文化の創造活動に取り組む。

⑬. シンボルロード整備事業(国土交通省、福岡県、久留米市)

事業実施期間	【再掲】P11 参照
事業概要	【再掲】P11 参照
国の支援措置名及び支援期間	【再掲】P11 参照
目標値・最新値及び達成状況	目標値 6,020 人の内数 本事業の整備による増加歩行者が交流施設を利用した実数が不明のため最新値は測定不能。 全体目標未達成
達成した(出来なかった)理由	ハード面の整備は進んだが、周辺を歩いてみたくなるような魅力的な店舗づくりや情報発信等が不足しており、中心市街地全体へ回遊性を向上させるまでには至らなかった。
計画終了後の状況(事業効果)	「くるめシンボルロード」として、安全性・快適性を高める移動空間整備を行うことで、通りの個性や魅力が向上した。
事業の今後について	関係機関と連携しながら、事業完了に向けて取り組みを推進する。

⑭. 花とみどりの景観事業(くるめ花街道サポーター制度)(久留米市)

事業実施期間	【再掲】P11 参照
事業概要	【再掲】P11 参照
国の支援措置名及び支援期間	【再掲】P11 参照
目標値・最新値及び達成状況	目標値 6,020 人の内数 本事業の取組みによる増加歩行者が交流施設を利用した実数が不明のため最新値は測定不能。 全体目標未達成
達成した(出来なかった)理由	緑化活動により都市景観は向上したが、周辺を歩いてみたくなるような魅力的な店舗づくりや情報発信等が不足しており、中心市街地全体へ回遊性を向上させるまでには至らなかった。
計画終了後の状況(事業効果)	シンボルロードをはじめとする主要な通りにおいて都市景観が向上した。
事業の今後について	道路管理者や緑化ボランティア団体と連携し、都市景観の向上に取り組む。

⑮. 中心市街地における景観形成推進事業(久留米市)

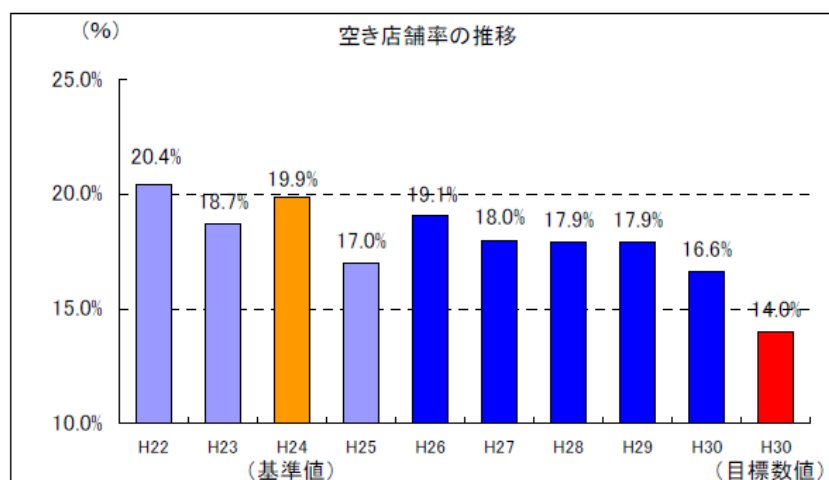
事業実施期間	【再掲】P12 参照
事業概要	【再掲】P12 参照
国の支援措置名及び支援期間	【再掲】P12 参照
目標値・最新値及び達成状況	目標値 6,020 人の内数 本事業の整備による増加歩行者が交流施設を利用した実数が不明のため最新値は測定不能。 全体目標未達成
達成した(出来なかった)理由	良好な景観形成についての検討に取り組んだが、直接的な事業効果の発現には至らなかった。
計画終了後の状況(事業効果)	中心市街地景観形成ガイドラインを策定した。
事業の今後について	中心市街地景観形成ガイドラインに基づき良好な景観形成に向けた取り組みを進める。

4. 今後の対策

久留米シティプラザをはじめ中心市街地の各交流施設には多くの集客があったが、各施設の連携が不足しており、目標値までには至らなかった。今後は関連イベントの同時開催や効率的な情報発信など各交流施設が連携した取組を推進し、それぞれが有する機能を最大限に発揮したうえで、相乗効果を活かした施設利用者の増加に取り組む。

「空き店舗率」※目標設定の考え方基本計画 P78～P82 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位)
H24	19.9% (基準年値)
H25	17.0%
H26	19.1%
H27	18.0%
H28	17.9%
H29	17.9%
H30	16.6%
H30	14.0% (目標値)

※調査方法: 現地調査(毎月末(フォローアップは毎年3月末))

※調査月: 平成31年3月末

※調査主体: 久留米市

※調査対象: 中心市街地内の10中心商店街

2. 目標の達成状況【B】

空き店舗率の改善に向けた事業については、おおむね予定通り進捗・完了している。「中心市街地商店街空き店舗対策事業」や「まちなか起業家支援事業」、「空き店舗ツアー」などの空き店舗対策に取り組み、新たな出店や中心商店街の担い手づくりを進め、計画期間平均では年間20件前後の出店に繋がっている。一方で、退店も年間20件程度あり、基準値を超えることができたが、目標値までには及ばなかったため、達成状況はBとした。

3. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 中心市街地商店街空き店舗対策事業(久留米市)

事業実施期間	【再掲】P8 参照
事業概要	【再掲】P8 参照
国の支援措置名及び支援期間	【再掲】P8 参照
目標値・最新値及び達成状況	目標値 削減空き店舗数 54 店舗 最新値 削減空き店舗数 12 店舗 目標未達成
達成した(出来なかった)理由	計画期間中の出店は119店舗あったが、大半は本事業の補助対象外となる夜間営業の飲食店舗であり、本事業による削減店舗数は12店舗に留まった。
計画終了後の状況(事業効果)	補助対象外の出店も含めると、年間20店舗前後の出店があった。
事業の今後について	毎年、20店舗前後の出店がある一方で、同数程度の退店があり、空き店舗対策に加え、空かない店舗対策を継続して実施する。

②. まちなか起業家支援事業(株)ハイマート久留米)

事業実施期間	平成21年度～平成30年度【済】 〔認定基本計画 平成21年度～〕
事業概要	商店街に不足している業種並びにその人材を育成することを目的に、起業家の育成に取り組む。開業に向けたビジネスプラン策定のサポー

	ト、店づくり・開店後の営業サポートなどの支援を行なう。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置活用なし
目標値・最新値及び達成状況	目標値 削減空き店舗数 7 店舗 最新値 削減空き店舗数 3 店舗 目標未達成
達成した(出来なかった)理由	継続的にきめ細かな助言等を行っているが、ネット販売拡大の影響等を受けた物販店舗の閉店などにより、3店舗の削減に留まった。
計画終了後の状況(事業効果)	市が実施している空き店舗対策事業に統合。
事業の今後について	商店街で新たに起業することは大変厳しい状況であり、市が実施している空き店舗対策事業に統合した。

③. 六ツ門 8 番街地区第一種市街地再開発事業(市街地再開発組合)

事業実施期間	【再掲】P6 参照
事業概要	【再掲】P6 参照
国の支援措置名及び支援期間	【再掲】P6 参照
目標値・最新値及び達成状況	目標値 (関連事業③④⑤合計) 削減空き店舗数 6 店舗 出店舗数 8 店舗 最新値 削減空き店舗数 4 店舗 出店舗数 9 店舗 目標未達成
達成した(出来なかった)理由	当事業により、一定の空き店舗の削減が出来たが、目標達成までには至らなかった。
計画終了後の状況(事業効果)	事業完了
事業の今後について	シティプラザ整備事業は終了したが、引き続き、シティプラザ効果を活かした出店を図る。

④. 六ツ門 8・9 番街地区暮らし・にぎわい再生事業(久留米市)

事業実施期間	【再掲】P7 参照
事業概要	【再掲】P7 参照
国の支援措置名及び支援期間	【再掲】P7 参照
目標値・最新値及び達成状況	目標値 (関連事業③④⑤合計) 削減空き店舗数 6 店舗 出店舗数 8 店舗 最新値 削減空き店舗数 4 店舗 出店舗数 9 店舗 目標未達成
達成した(出来なかった)理由	開館以来、施設全体の稼働は上昇傾向にあるが、開業効果が落ち着いていたことなどから、一部の施設で比較的大型のイベントの開催割合が減少したため。
計画終了後の状況(事業効果)	文化芸術振興、広域交流促進、賑わい交流の拠点として整備を行うことにより中心市街地への来街促進が図られた。
事業の今後について	実施済み

⑤. 久留米シティプラザ開館記念等事業(久留米市)

事業実施期間	【再掲】P7 参照
事業概要	【再掲】P7 参照
国の支援措置名及び支援期間	【再掲】P7 参照
目標値・最新値及び達成状況	目標値 (関連事業③④⑤合計) 削減空き店舗数 6 店舗 出店舗数 8 店舗 最新値 削減空き店舗数 4 店舗 出店舗数 9 店舗 目標未達成
達成した(出来なかった)理由	開館以来、施設全体の稼働は上昇傾向にあるが、開業効果が落ち着いたことなどから、一部の施設で比較的大型のイベントの開催割合が減少したため。
計画終了後の状況(事業効果)	文化芸術振興、広域交流促進、賑わい交流の拠点として整備を行うことにより中心市街地への来街促進が図られた。
事業の今後について	実施済み

⑥. 新世界地区(第2期工区)優良建築物等整備事業(推進協議会)

事業実施期間	【再掲】P8 参照
事業概要	【再掲】P8 参照
国の支援措置名及び支援期間	【再掲】P8 参照
目標値・最新値及び達成状況	目標値 削減空き店舗数 1 店舗 削減総店舗数 3 店舗 最新値 削減空き店舗数 1 店舗 削減総店舗数 3 店舗 目標達成
達成した(出来なかった)理由	共同建替えによる老朽空き店舗の解体や統廃合を行い、目標を達成した。
計画終了後の状況(事業効果)	事業完了
事業の今後について	当該整備事業は終了したが、引き続き、まちなか居住者の増加を活かした出店を図る。

⑦. 銀座地区優良建築物等整備事業(推進協議会)

事業実施期間	【再掲】P9 参照
事業概要	【再掲】P9 参照
国の支援措置名及び支援期間	【再掲】P9 参照
目標値・最新値及び達成状況	目標値 削減空き店舗数 6 店舗 削減総店舗数 22 店舗 最新値 削減空き店舗数 6 店舗 削減総店舗数 22 店舗 目標達成
達成した(出来なかった)理由	共同建替えによる老朽空き店舗の解体や統廃合を行い、目標を達成した。
計画終了後の状況(事業効果)	事業完了

事業の今後について	当該整備事業は終了したが、引き続き、まちなか居住者の増加を活かした出店を図る。
-----------	---

4. 今後の対策

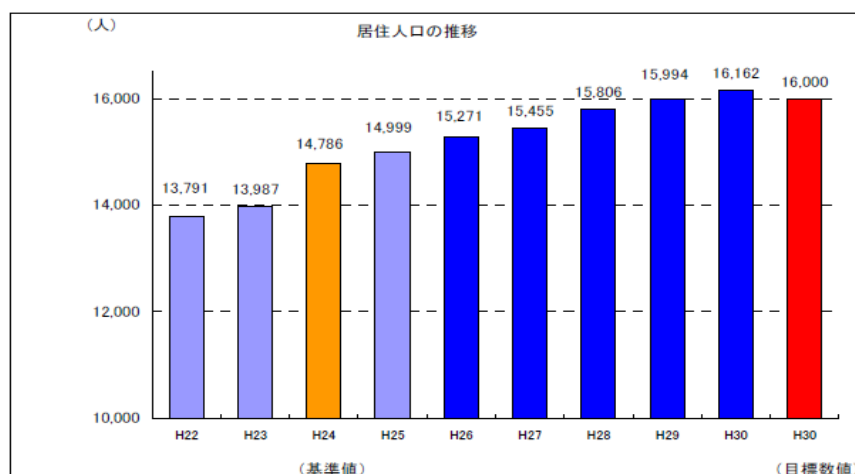
平成 29 年度から開始した空き店舗ツアー等の活用により、出店希望者の情報のストック及びマスメディア等情報媒体による情報発信を推進するとともに、建物所有者を対象としたセミナー等を開催することで、長期化する空き店舗への投資を促すなど事業の取り組みを強化する。

また、既存店舗の魅力向上を更に推進し支援することで、商店街全体の魅力向上を図り、空き店舗率の改善に取り組む。

さらに、空き店舗対策補助金等の審査過程や空き店舗ツアー等を通じて、出店希望者と商店街組合の円滑なコミュニケーションの醸成を促す取り組みを新たに開始しており、このことにより商店街組合としての新規店舗への自発的な支援体制の構築を促進し、退店の抑止に繋げていく。

「居住人口」※目標設定の考え方基本計画 P82～P84 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位)
H24	14,786 人 (基準年値)
H25	14,999 人
H26	15,271 人
H27	15,455 人
H28	15,806 人
H29	15,994 人
H30	16,162 人
H30	16,000 人 (目標値)

※調査方法: 中心市街地域での住民基本台帳登録人口

※調査月: 平成 31 年 4 月 1 日

※調査主体: 久留米市

※調査対象: 中心市街地内居住者(12 町の人口計)

2. 目標の達成状況【A】

居住人口の増加に向けた事業については、おおむね予定通り進捗・完了した。新世界地区や銀座地区で実施された優良建築物等整備事業による良好な住宅の供給や民間のマンション建設等を背景に着実に数値を伸ばし目標を達成したため、達成状況はAとした。

3. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 新世界地区(第 2 期工区)優良建築物等整備事業(推進協議会)

事業実施期間	【再掲】P8 参照
事業概要	【再掲】P8 参照
国の支援措置名及び支援期間	【再掲】P8 参照
目標値・最新値及び達成状況	目標値 166 人 最新値 平成 28 年 12 月に完了し、街なか居住に適した優良な住宅を 91 戸供給したことで、居住人口の増加に寄与した。 目標達成
達成した(出来なかった)理由	予定通り建設工事が完了し、販売も概ね好調であった。
計画終了後の状況(事業効果)	街なか居住の促進に貢献するとともに、歩行者通行量の増加に寄与した。
事業の今後について	実施済み

②. 銀座地区優良建築物等整備事業(推進協議会)

事業実施期間	【再掲】P9 参照
事業概要	【再掲】P9 参照
国の支援措置名及び支援期間	【再掲】P9 参照
目標値・最新値及び達成状況	目標値 149 人 最新値 平成 30 年 3 月に完了し、街なか居住に適した優良な住宅を

	84 戸供給したことで、居住人口の増加に寄与した。 目標達成
達成した(出来なかった)理由	予定通り建設工事が完了し、販売も概ね好調であった。
計画終了後の状況(事業効果)	街なか居住の促進に貢献するとともに、歩行者通行量の増加に寄与した。
事業の今後について	実施済み

③. 地域優良賃貸住宅助成事業(市)

事業実施期間	【再掲】P9 参照
事業概要	【再掲】P9 参照
国の支援措置名及び支援期間	【再掲】P9 参照
目標値・最新値及び達成状況	目標値 153 人 最新値 0 人 目標未達成
達成した(出来なかった)理由	計画期間中に、本事業を活用した施設整備が実施されなかったため。
計画終了後の状況(事業効果)	直接的な整備には至らなかったが、子育て世帯向けの「ファミリー世帯型」や高齢者向け「サービス型」の住宅整備についての相談対応を行い高齢者や子育て世代に優しい共同住宅の誘導に取り組んだ。
事業の今後について	住まいに関する窓口での相談対応を継続し、まちなか居住の促進に取り組む。

4. 今後の対策

今後も、街なか居住を促進し、居住人口の維持・増加に取り組むとともに都市機能が集約したコンパクトなまちの整備を進め、徒歩圏内で多様なサービスを受ける事ができる「日本一住みやすいまちづくり」を推進する。